

証券コード：7157



LIFENET

LIFENET INSURANCE COMPANY

IFRS17号「保険契約」 勉強会（第2回）

ライフネット生命保険株式会社

2022年10月14日

限定事項

- ご説明する情報は、生命保険会社に係る法定会計および国際財務報告基準（IFRS）に関する当社の現段階における解釈と見解に基づいています。
- 業界他社、その他の関係者は異なる解釈と見解を持つ可能性があります。
- 本資料では、理解の容易性のため、一部、実際の会計基準等と異なる表現を使用しています。

目次

1. 本勉強会について
 2. 第1回勉強会のポイント
 3. IFRS17号 保険負債（再掲）
 4. IFRSの損益計算書構成（再掲）
 5. CSMによる収益認識（再掲）
 6. 今回お伝えしたいこと
 7. IFRS17号 利益の増減分析
 8. IFRS17号 利益の増減分析（例示）
 9. CSMの異動表
 10. CSMの将来配分
 11. 新契約の収益性の影響
 12. EVとIFRS資本の概念的比較
 13. 今後の重要指標：EVとIFRS利益
 14. 成長性と収益性の主要KPI
 15. IFRS17号の適用スケジュール
- Appendix

1. 本勉強会について

■ 目的

当社の2023年度のIFRSの任意適用に先立ち、
IFRS17号の重要なポイントについて説明

➡ 新たな財務諸表・財務分析のご説明に円滑に移行

(注) 当社の具体的な業績予想等についてご説明するものではありません

■ スケジュール (案)

	テーマ (案)	開催時期
第1回	IFRS17号の基礎 ・ IFRS導入の背景・意義 ・ IFRS17号 損益のポイント・CSM (契約サービス マージン) の重要性	2022年7月5日
第2回	IFRS17号における財務分析 ・ 利益・財務指標・CSMの増減等の分析	2022年10月14日
第3回	IFRS17号 アップデート ・ IFRS17号の動向、Q&A等	2023年1月頃

2. 第1回勉強会のポイント

- 当社の期間業績・収益の実態をより適切に反映できる
- CSM（契約サービスマージン）の増大が将来の利益の成長に繋がる
- IFRS17号の適用後も、資本規制と剰余金の配当は法定会計に準ずる

3. IFRS17号 保険負債（再掲）

IFRS 貸借対照表



※上の図はIFRS17号の一般モデルに対する説明です

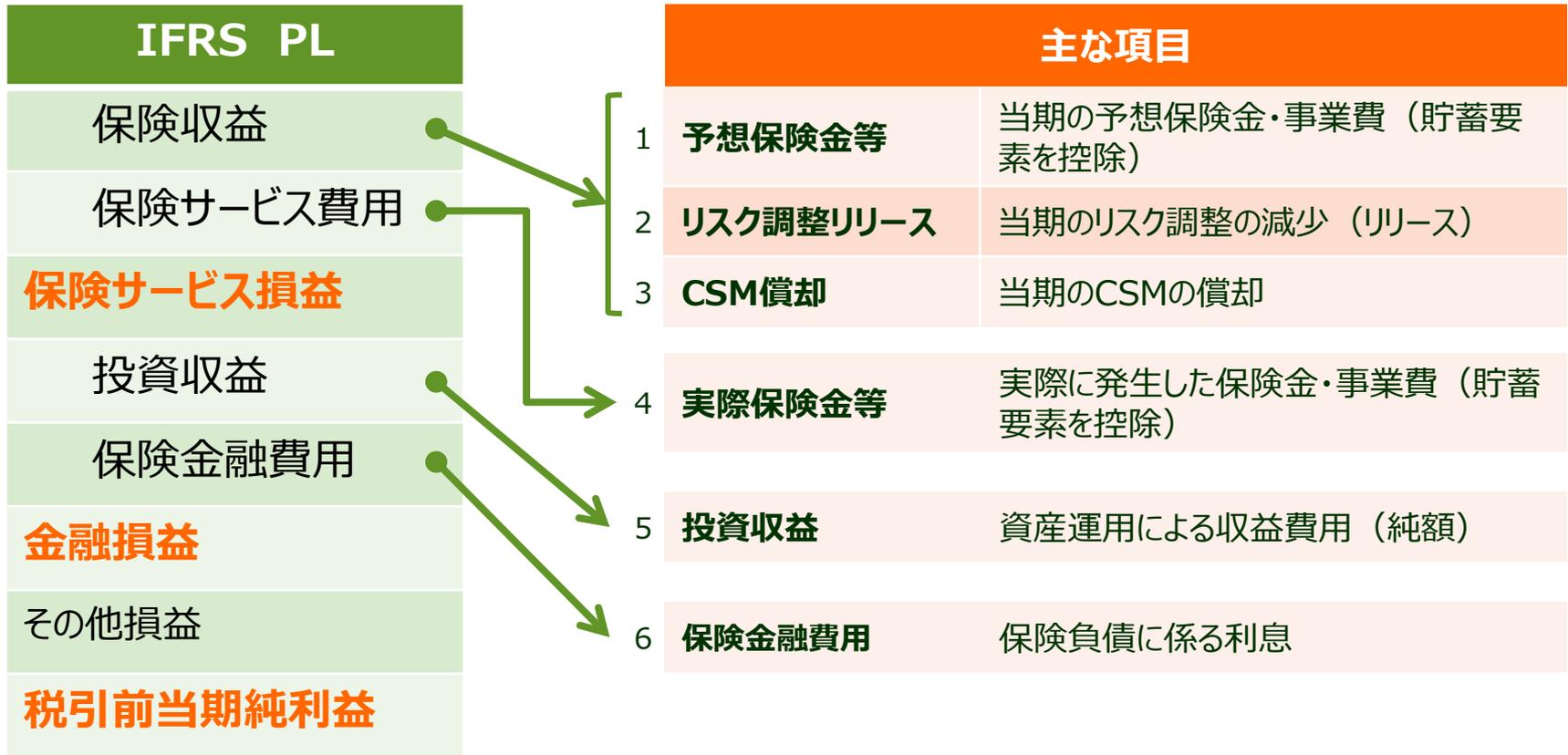
保険負債の3つの構成部分

- **将来CF現価：**
将来の支出（保険金等）の現価から将来の収入（保険料）の現価を控除した金額
- **リスク調整：**
将来CFの不確実性への備え
- **CSM：**
「将来利益を表す負債」で、保険期間の経過とともに償却され利益となる

IFRS17号の移行時（またはIFRSの導入時）には、原則として、保有契約に対して、新契約時に遡って保険負債が計算される

4. IFRSの損益計算書構成（再掲）

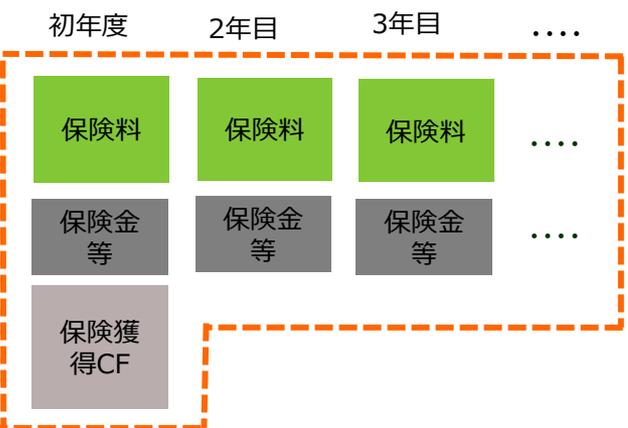
- 保険収益は保険料そのものではなく保険負債からのリリース
- 保険サービス損益は、保険金等の予想と実際の差額、リスク調整リリース、CSM償却に分解できる
- 保険サービス損益と金融損益は利益の源泉に対応し分析しやすい



5. CSMによる収益認識（再掲）

新契約 将来の予想CF

経験に基づく最善前提で計算



CSM

現在価値



CSMを保険期間にわたり
収益として配分（償却）



※ CSMが負になる場合は即時に損失認識となります

CSMの増大（= 将来利益の成長）に重要なこと

- 収益性の高い新契約の獲得
- 保険金・事業費の良好な経験に基づく前提アップデート

6. 今回お伝えしたいこと

- 利益の増減分析における重要な3つの要因：
 - ① 保有の成長
 - ② 実績の変動
 - ③ 前提変更の影響
- 利益成長は収益性の高い新契約の獲得が重要
- IFRS利益とEVは複眼的にみるべき重要な指標

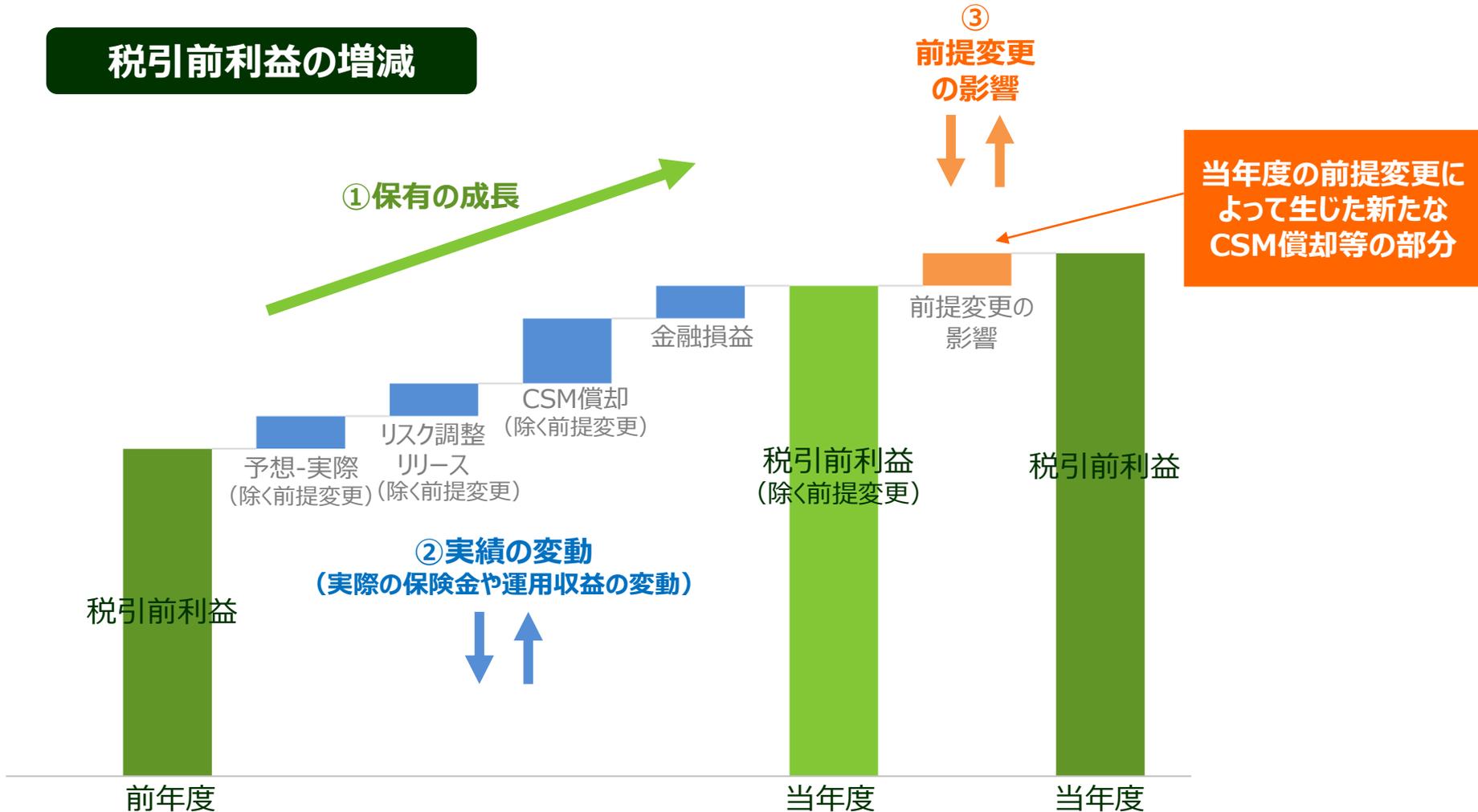
7. IFRS17号 利益の増減分析



LIFENET

- 前年度からの利益の増減は、主に、①保有の成長、②実績の変動、③前提変更の影響の3つに分解できる

税引前利益の増減

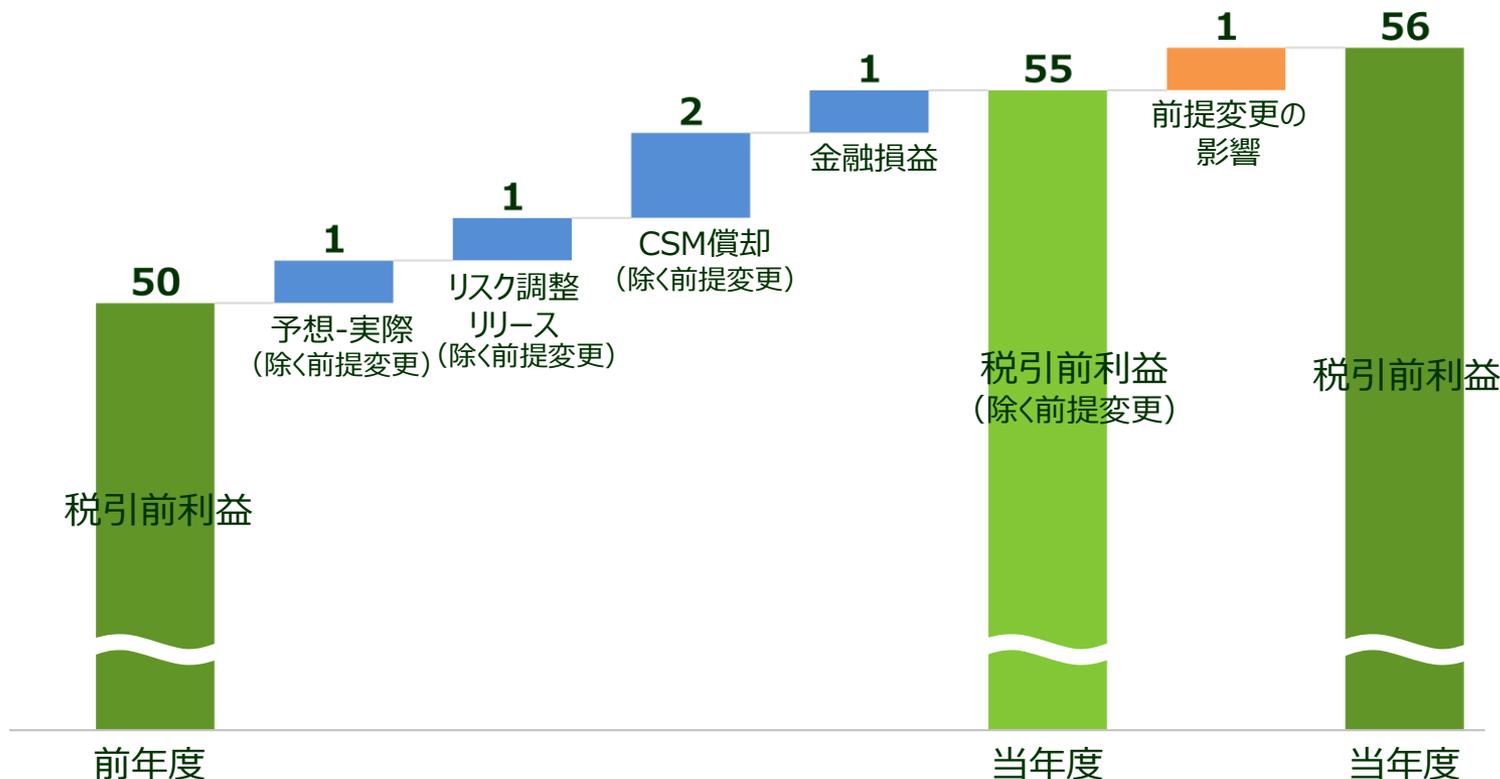


8. IFRS17号 利益の増減分析（例示）

- 前提変更の影響を除いた利益は、保有の成長に応じて増加し、実際の保険金や投資収益の変動（ぶれ）があればその増減分も利益に反映される

税引前利益の増減（例示）

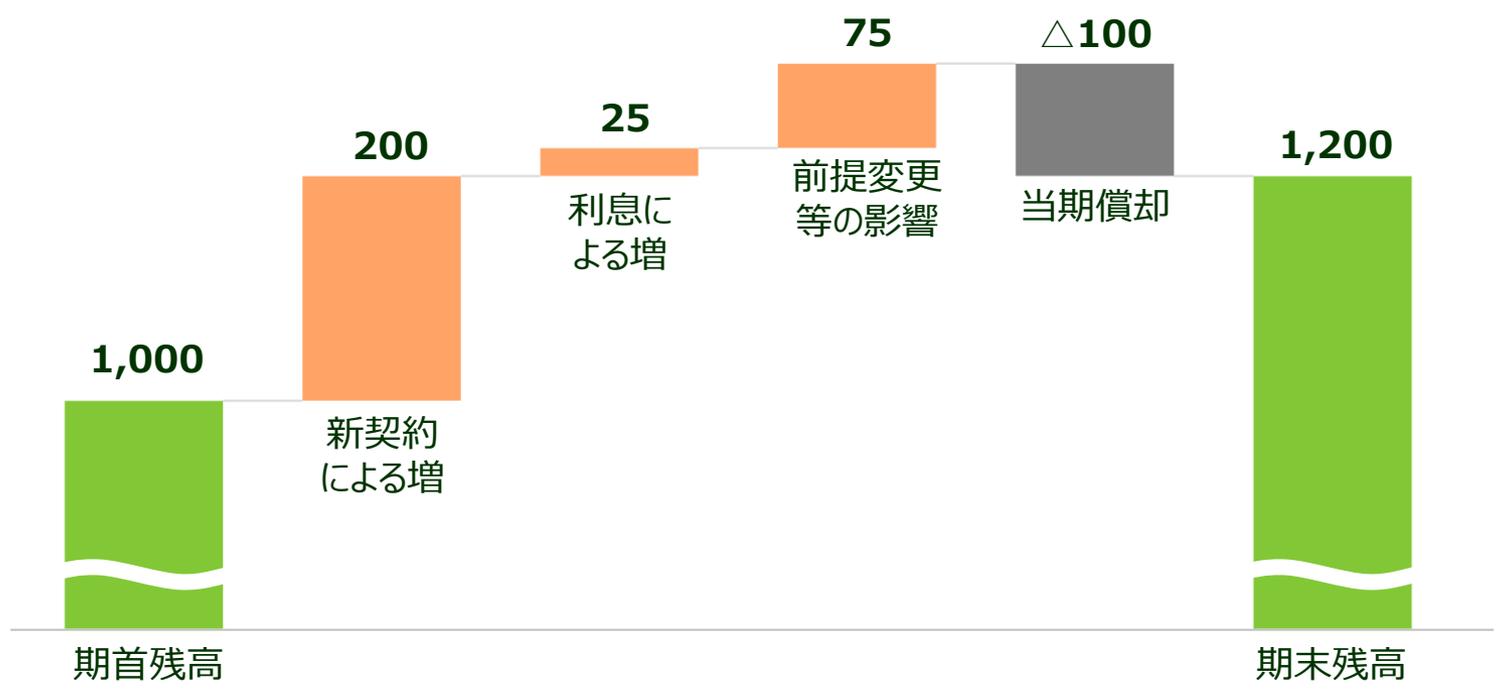
（例）税引前利益が50から56に増加、うち前提変更の影響が+1のケース
前提：保有は10%程度増加、保険金実績等の変動はない



9. CSMの異動表

- **新契約による増と収益改善に伴う前提変更**の2つの要因によりCSMが増加
- **前提変更後のCSMは、当期償却分は収益として、将来分は期末残高として配分**される

期首から期末へのCSM異動表（例示）



10. CSMの将来配分

- 当期末保有のCSMからの収益実現の時期が推測できる（注記開示事項）
 - ✓ 例示は典型的な継続率による配分パターン

項目		金額	PLへの認識が見込まれる時期					
			X+1	X+2	X+3	X+4	X+5	X+6 -
保有CSM (実績)	X年度末	1,000	87	80	74	68	62	629

- 予想される新契約のCSMとその配分パターンを追加し、会社全体の将来CSMの配分を予測することが可能
 - ✓ 当期末保有と翌期以降新契約のCSMの将来配分によって利益が実現

新契約CSM (予測)	X+1年度	200	17	16	15	14	12	126
	X+2年度	200		17	16	15	14	138
	X+3年度	200			17	16	15	152
	X+4年度	200				17	16	167
	X+5年度	200					17	183
保有 + 新契約 (予測)	CSM配分	2,000	105	114	122	130	137	1,393

11. 新契約の収益性の影響

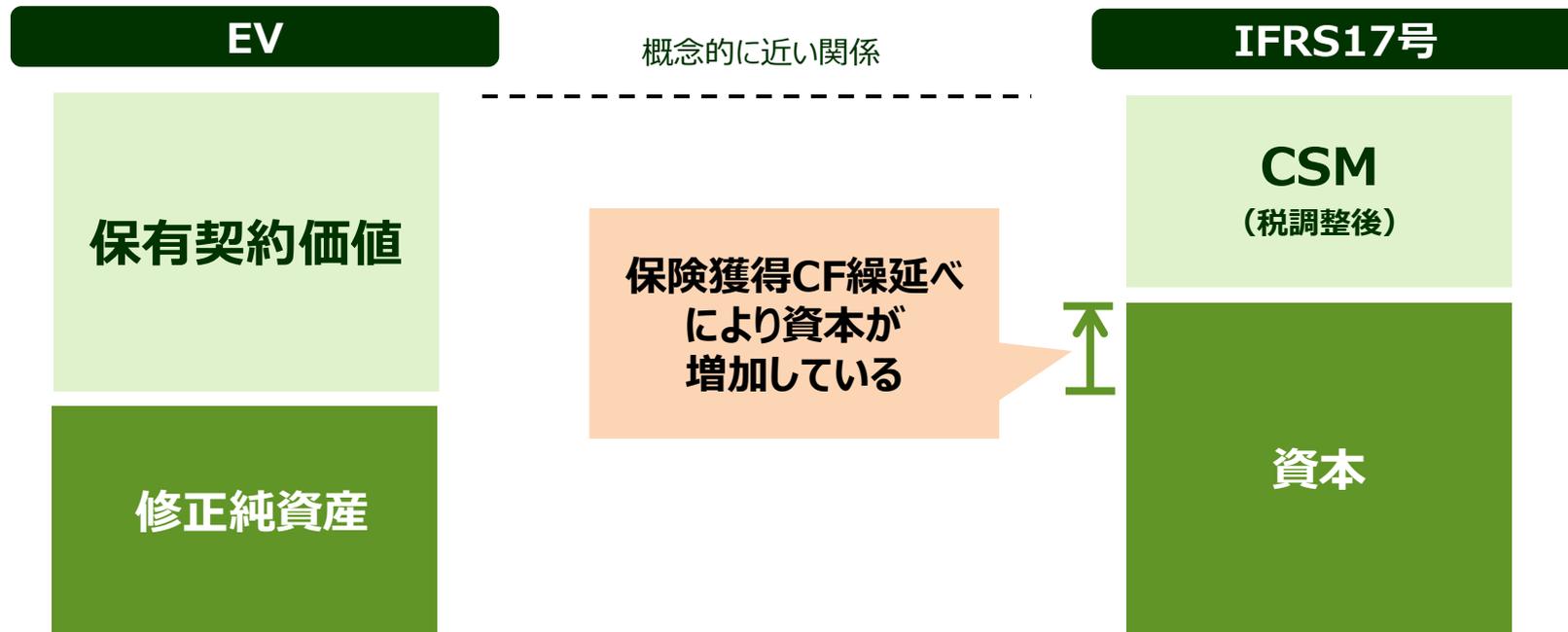
- 不利でない新契約から当初CSMが生じ、CSM残高が増加
- 不利な新契約の当初損失分は当期のPLに費用計上

(例) 新契約CSM、初期損失の計算 (注記開示事項)

	項目	不利でない 新契約	不利な 新契約	合計
1	保険料現価	1,000	100	1,100
2	保険金等現価	600	90	690
3	保険獲得CF	100	15	115
4	当初リスク調整	100	15	115
5	当初CSM	200	-	200
6	当初損失	-	△20	△20

新契約の収益性が重要

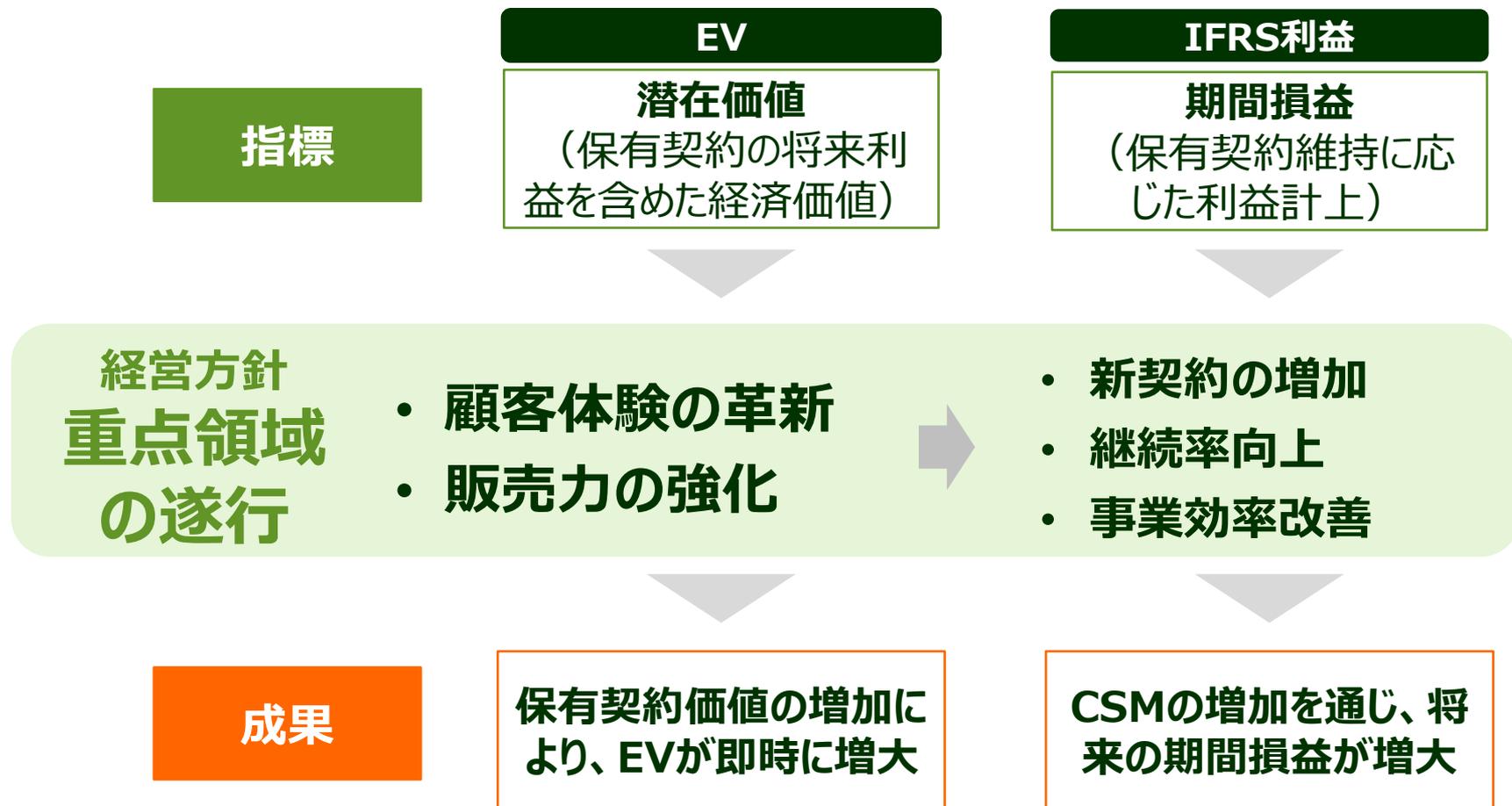
12. EVとIFRS資本の概念的比較



- 保険期間の経過に伴い、
 - ・ EVは、保有契約価値が実現され、修正純資産に振り替わる
 - ・ IFRSは、CSMが収益認識され、資本に振り替わる

13. 今後の重要指標：EVとIFRS利益

- EVとIFRSは経営努力の結果が反映される複眼的にみるべき重要指標と位置づけ



14. 成長性と収益性の主要KPI

■ EVとIFRS利益を重要指標とする下での主要KPI（例）

	KPI	内容
成長性	保有純増（件数・AP）	・ 収益を生み出す保有規模の増加
	CSM増加額	・ 「将来のIFRS利益」の成長
	EV増加額	・ 経済価値の成長
収益性	新契約マージン （新契約価値/保険料現価）	・ 商品収益性
	ROE （IFRS利益/IFRS資本）	・ 財務会計における資本効率性
	ROEV （EV増加額/EV残高）	・ 経済価値における資本効率性

上記の各KPIにおいて、前提変更の影響等の一時的要因を除いた「修正ベース」で経営管理を行うことも有効な方法

15. IFRS17号の適用スケジュール



※第3回のIFRS勉強会は、2023年1月頃に予定しています

補足資料



LIFENET

LIFENET INSURANCE COMPANY

IFRS17号 保険負債（当初認識）

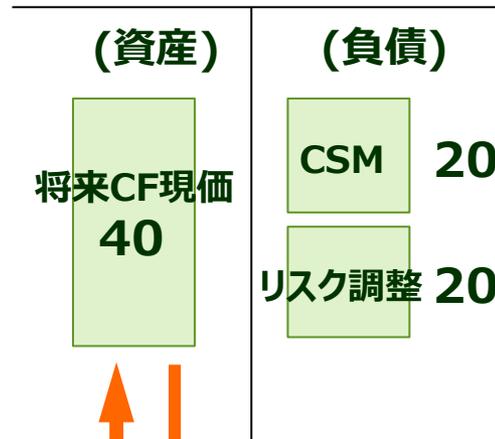
例) 保険料一時払契約（保険料120）

数値は例示

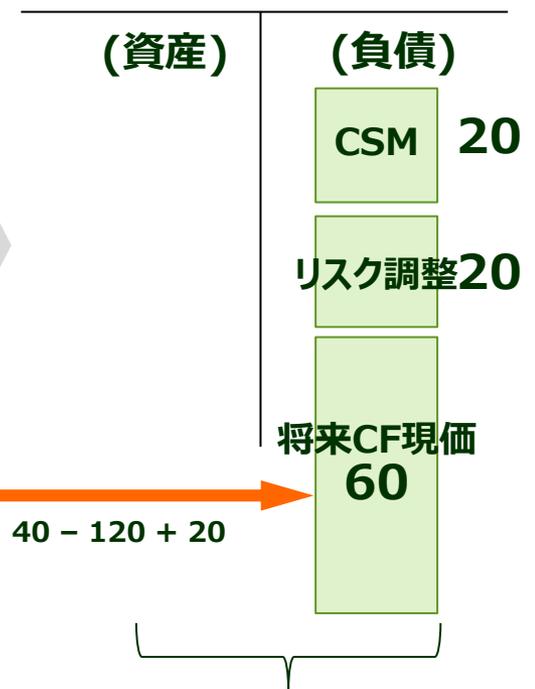
[収入現価] [支出現価]



[初期測定]



[保険料120入金、
保険獲得CF20支出後]



$= 120 - 60 - 20$

保険負債 0

$= 40 - 120 + 20$

保険負債 100

※ CSMが負になる場合は即時に損失認識されます

IFRS17号 保険負債（事後測定）

- 保険前提およびリスク係数の変更の影響はCSMで調整
- 割引率の変更の影響はCSMで調整しない



将来の保険サービス
損益が平準化される

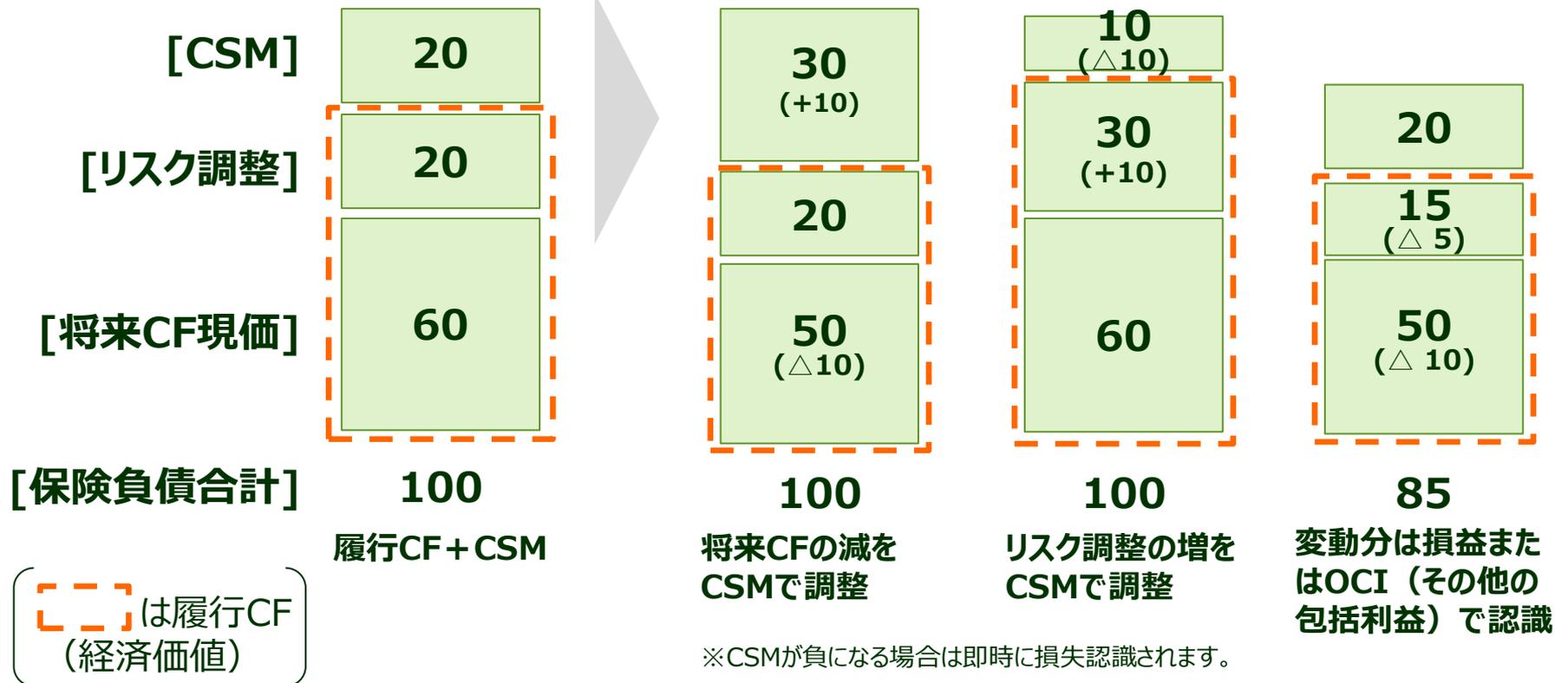
数値は例示

前提変更前

① 死亡率前提
引下げ

② リスク係数
引上げ

③ 金利（割引率）
上昇



IFRS17号のEVとの比較

項目	IFRS17号	EV
目的	<ul style="list-style-type: none"> 保険負債の測定と収益の配分 	<ul style="list-style-type: none"> 潜在価値の評価
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 保険期間に見込まれる利益をCSMに計上して将来に配分 	<ul style="list-style-type: none"> 保険期間に見込まれる利益を新契約価値として計上
前提変更 (割引率以外)	<ul style="list-style-type: none"> 前提変更の影響をただちに損益に計上せず、CSMに調整して将来に配分 	<ul style="list-style-type: none"> 前提変更の影響は保有契約価値の増減として反映される
割引率の変更	<ul style="list-style-type: none"> 保険負債の評価に反映させ、影響額は損益またはOCIに計上 	<ul style="list-style-type: none"> 将来利益の割引に反映させ、影響額は将来利益現価の増減として反映される
前提と実績の 差異	<ul style="list-style-type: none"> 当期の損益となる 	<ul style="list-style-type: none"> 当期の修正純資産の増減として反映される
リスクの解放	<ul style="list-style-type: none"> 時の経過に伴うリスク調整の減少は収益として認識される 	<ul style="list-style-type: none"> 時の経過に伴うヘッジ不能リスクの減少は、将来利益現価の割り戻しとして修正純資産の増加となる